

桃次郎

阪田寛夫

インタナル出版社

桃 次 郎

昭和五十年四月二十五日初版

著者について
阪 田 寛 夫 (さかた・ひろお)

大正十四年大阪に生まれる

昭和二十六年東京大学文学部国史学科卒業

朝日放送入社 昭和三十八年退社

昭和五十年「土の器」で第七十二回芥川賞受賞

著書に「土の器」文芸春秋 「わが町」晶文社

「我等のブルース」三三書房 「庄野潤三ノート」

冬樹社 詩集「わたしの動物園」牧羊社 など

がある

著 者 阪 田 寛 夫

発行人 高 橋 和 夫

編集人 坂 本 哲 哉

発行所 インタナル出版社

東京都渋谷区渋谷三丁目十七番二号

電話 東京(三〇五)二九三一(代表)

振替口座 東京二一五〇一八九番

印刷 和光印刷所 製本 昇栄製本

落丁・乱丁本はお取替え致します

目次

サッちゃん

イシキリ.....3

—私のキリスト—

をとおは.....41

—落語「三十石舟」より—

花子の旅行.....59

煉瓦色の街.....101

—日々のわれらへのレクイエム—

桃次郎の冒険.....111

あとがき.....237

裝
幀

繡
茂
恭
子

イシキリ

私のキリスト



教会、伽藍内部のつもり。

女、手を組んでいる。

影の部分に、コーラスがいる。

コーラス 血しおしたたる

主エス・キリスト

十字架を負いし

主エス・キリスト

なやみと はじに

やつれし主を

われはかしこみ

きみを仰ぐ

女

エホバは我をみどりの野にふさせ
いこいの水際に伴いたもう

女と
コーラス

エホバはキリスト教の神さまの名まえです。そのお名まえが、いろはうたの中に、よみこまれているのですって。

あのひとが、そっとおしえてくれた時、わたしはおなかの底からびっくりしました。千年も昔に弘法大師さまが、ちゃんと四十七文字のうたにヘブライ語をのこしておかれたっていうんですから。

いろはうたを、七文字づつならべて、一ばん上の行をよんでいくの。

(い) ろはにほへと

(ち) りぬるをわか

(よ) たれそつねな

(ら) むうゐのおく

(や) まけふこえて

(あ) さきゆめみし

(ゑ) ひもせす

いちよらやああ

いちよらやああ！

いろはうたの投射。

女

「いちょら」はヘブライ語でただひとりの。

「やあゑ」はエホバ、アメリカでもヤーベというそうです。いちょらやあゑ、ただひとりのエホバ。でも、高野山をひらかれたお大師さまが、どうしてヘブライのことばをご存じだったのでしょうか。ほんとにふしぎで、「きっとこれはなにかの偶然で、ことばがならんだのでしょうか」わたし、あのひとにそういいました。

わたしは何ごとでも内輪、内輪に、と思うくせがあつて、五年前、眼がだんだん見えなくなってきたときも、

「疲れて、眠りが足りないからよ」

とあのひとに言っていました。

お医者さまに行くにも、びんぼうしていましたから、なるべくひかえていたんです。歩くのに不自由になって、やっと眼医者に行きましたら、「もう、あなたはめくらになりますよ」と言われました。

あら、すみません、話が横へそれてしまいました。

女と
コーラス

あのひとはわたしが疑っているのを知って、悲しそうにわらいました。
「それなら、下の行を右から左へ読んでごらん」
あのひとが、そう教えてくれました。

いろはうたの投射。

いろはにほへ（と）
ちりぬるをわ（か）
よたれそつね（な）
らむうゑのお（く）
やまけふこえ（て）
あさきゆめみ（し）
ゑひもせ（す）
とかなくてしす
とかなくてしす

「とかなくて死す。……科とが無くて死す。……誰のこと？」

あのひとが、私の眼をみました。

わたしも、あのひとの眼の奥をじっと見ました。私の胸がしめつけられそうになりました。

それはキリストのことなのね！ キリストは罪もなく十字架にかけられたのだから。「しずかに」あのひとが片手を振りました。

「大きな声で言っちゃいけない。これは、ぼくとキミのヒミツ。世の中を騒がせるといけない」

だって！ と私は言いました。そんな大変な発見を、だまっていることはありませんわ。私は何もわからないけど、センセイの手助けをするわ。本に書いて出して下さい。

あのひとは首を横に振って、ほほえみました。

私はあのひとが、恥ずかしがっていたのだと思いました。でもいま。——めくらになっただけは、あのひとの微笑みの意味がわかります。

あのひとは、もっとだいたいなことを言いたかったのです。何を言いたかったのか、それはこれからお話ししましょう。

コーラスに照明あたる。

コーラス それは五年前

わたくしの目はよく見えた
あのひとの目をみるために――
その頃わたしは幸せだった
毎朝四時に目をさます

女

夜あけの星とかけっこして

五時にあのひとのアパートへ

せんたくをして ふき掃除

七時にみんなで朝ごはん

子供らの世話をして

それから二人で うちを出ます

コーラス それは五年前

わたくしの目はよく見えた

イシキリ

女

その頃わたしは幸せだった

伴奏の間に、コーラスの中から四人の工夫がでてきてツルハシをふりかざす格好で、エ
ンヤラヤーを始める。

女、カサをさし、舞台の端に移動。

不在の人物にカサをさしかけて、エンヤラヤーを見守っている。

工

夫

エンヤ ラヤー

エンヤ ラヤー

エンヤ ラヤー

エンヤ ラヤー（繰返す）

女

雨の朝のことです。私たち駅で電車を待っていました。

線路工夫さんのかけ声がきこえていました。

この時、あのひと、ふしぎな力に導かれて、たいへんな発見をしたんです。

あのひと、とつぜん

「エンヤラヤはヘブライ語だっ！」

そう言ったの。

「エンヤラヤがどうかしたの？」

わたし、おどろいて聞きました。

「エンヤラヤはヘブライ語。

エハニ・アハレルヤー。——すなわち

われは、エホバを信じまつる」

空を仰いであの人がそう言ったんです。

音楽入る。(工夫のリズムに合わせて太鼓とフルートが入る)

文字の投射。

「エンヤラヤー

エンヤラヤー

エハニ・アハレルヤー

「エハニ・アハレルヤー」

女と
コーラス

エンヤ ラヤー

エンヤ ラヤー

われはエホバを信じまつる

エンヤ ラヤーエ

エンヤ ラヤー

（エハニ・アハレルヤー

エハニ・アハレルヤー）

女

あのはずかしがりやの、しずかなひとが、とつぜん駅で、エンヤラヤーを歌い出したので、ひとびとはびっくりしました。

あのひとは、うれしくてうれしくてそのまま図書館へかけつけて、ヘブライ語の辞書と日本民謡全集を借りだしました。はじめ、ために秋田音頭をしらべました。

コーラス

ヤートーセー

女

ヤートーセー

ヨーイアナー

ヨーイアナー（繰返し）

文字の投射（秋田音頭）

「ヤートーセー

ヤートーセー

ヨーイアナー

ヨーイアナー」

ヤートーセーは

エホバは棄てぬ

ヨーイアナーは

祈りに答えた。

——だから、これは讚美歌なのよ。

女と
コーラス

エホバは棄てぬ
エホバは棄てぬ
祈りにこたえて
われらの仇^{あだ}を

女

ためしにしらべた民謡のはやしコトバがれっきとしたヘブライ語だとわかりました。
こんどは津軽オハラ節をしらべました。

コーラス

ヨーイヤナー

ヨーイヤナー

ヨーイヨーイア

ヨーイアナー（繰返す）

文字の投射（津軽小原節）

「ヨーイヤナー

ヨーイヤナー